

翔

2011年11月  
第11卷第11期



## 思 案 崎

松 井 正 人



夜明けの狼煙から見た佐渡、海面から顔を出す寸前の太陽はマツの陰で見えない。

(2015年6月5日撮影: 珠洲市の農家民宿おおつぼ提供)

アサギマダラは鳥のように渡りをする蝶として有名だ。渡りの範囲は広くて、北海道から九州、沖縄、更には台湾が知られている。小さな体で初夏の頃には北へ渡り、秋には南へ渡る。

日本海に大きく突き出した能登半島の最先端、珠洲市狼煙は初夏の中継地点として名高い。狼煙は、陸地の尽きる所、どちらを向いても海ばかりで、日本海側では珍しく海から昇る太陽が見られる場所でも有る。

日本列島を北上し袋小路のような能登半島に入り込んだアサギマダラは、狼煙で行く手を海に遮られハッと驚くに違いない。ここから海に飛び出すのかと思うと、怖じ気づくものもあるだろう。行こか戻ろか思案に暮れて、何日も日和見するものもいるはずだ。

そんな時、こんな景色が現れたら、日和見のアサギマダラたちも背中を押され、海に向かって飛び出して行くに違いない。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 石川県庁舎周辺に生息するクマゼミの覚え書き

松井 正 人

石川県金沢市鞍月の県庁舎を取り巻く人工植栽にはクマゼミが生息しており、2014年8月28日～9月1日の午前中に、おおよそ30分間隔でクマゼミの鳴き声を観察したので報告する。観察したのは、庁舎前面の植え込みと道路対岸の中央病院の植え込みで、庁舎裏側の植え込みは調べなかった。

28日は8時半頃～10時頃に観察を行い、いずれもクマゼミは鳴いていた。29日は6時半～12時頃に観察したところ、曇って肌寒い為なかなか鳴かず、日射しが出てきた9時頃から鳴き出し、11時半頃まで鳴いていた。30日は6時半頃～11時半頃に観察したところ、天気が良い為か7時半頃から鳴き始め盛んに鳴いていたが、9時頃からは雲が湧き日が陰ると鳴かなくなり照ると鳴き出し、11時半には鳴かなくなった。31日は8時半～13時頃に観察したところ、日が射し始めた9時頃から鳴き出し12時頃まで鳴いていたが、それ以降は日射しが有るにもかかわらず鳴かなくなった。9月1日は、7時半頃から観察を始め、日射しが有る8時半頃、9時半頃に鳴いていた。その後は観察できなかったが、11時には日射しの中で鳴いていた。

県庁舎周辺のクマゼミは、7月末～8月末に観察されており(松井、2012)、今回は発生終期の観察となった。鳴く時間帯は、6時40分～10時30分が報告されている(松井、2013)が、今回の観察では、7時半頃～12時頃に鳴いており、概ね日射しが有ると鳴き、曇っていると鳴かなかった。

クマゼミの鳴き声が聞こえた時間

	6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00
8月28日							○	○	○	○					
8月29日	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×		
8月30日		×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×			
8月31日					×	×	○	○	×	○	○	○	○	×	×
9月1日				×	×	○	×	○				○			

○ 鳴き声が聞こえた、 × 観察したが鳴き声は聞こえなかった

## 《 参考文献 》

松井正人 (2012) 石川県庁舎周辺に於けるクマゼミ発生の可能性. 翔(219):3-4.

松井正人 (2013) 石川県庁舎周囲に定着したクマゼミが鳴く時間帯. 翔(225):9-10.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 2013年蝶類採集（観察）報告

指 田 春 喜

世間の虫屋たちは、春のギフチョウ採集熱も以前に比べかなり冷めてきたようである。当方も先に報告したように、26都府県でのギフチョウ採集（昆虫と自然, 42(10), 27-31, 2007）を達成してしまい、出掛ける頻度は減ったが、やはり、これまで行っていないところで独りギフチョウを採るのが当方は好きである。特に夜行列車や高速夜行バスを利用しての計画を立てているとき、上手く交通手段が繋がった時の快感は、ギフをネットに入れた時以上のものがある。そんな思いで以下の採集地に出掛けてみた次第である。

### ■新潟県村上市間島能化山（alt. 381m） 2013年4月6-7日 晴れのち曇り

ギフチョウ 1♂

前日（5日）、金沢-新潟間は金沢駅前（東口）17:70発の高速バスを利用し、その夜は新潟駅前のホテル（ホテルリッチ新潟、¥2900円）に泊まった。午前6:48の村上行き乗車。その先の間島（駅）に行くには、10:34の普通列車まで待たなくてはならず、その間、臥牛山（村上城址）に行ってみた。しかしながら、ここは市民の朝の散歩・ウォーキングの場になっており、ネットを出すものはばかられ、ギフがまだ採れた昔の面影は既に無かった。

無人の間島駅を出て、26年前の案内「新潟県北部のギフチョウ」（月刊むし, 194, 32-34, 1987）に従って、当初は国道345号沿いに村上方面に向かいながら採集する予定であったが、駅前に小さな表記「能化山（ノッケザン、alt. 381m）」の登山案内板があるのが目にとまり、予定を変更。線路をくぐり、畑の後には、カタクリが最盛期を迎えている林床を歩き始め、1時間ほどで山頂に着ける。途中の道はかなり急であり、あまり採集に適するポイントもなかったが、直ぐに1♂をネットした。それでも天候が良ければ、アチコチから飛び出しそうな環境もある。正午前、山頂に着く頃から曇り始めてしまい、正に天気予報通りであった。仕方なく予定を早め、14:57の普通列車で村上に戻り、駅前の「タウンホテル村上（¥5500円）」泊。夕食は村上牛（200g、¥4800円）を賞味したが、やや不満が残るレベルであった。

翌7日は、全国的に天候が荒れ、新幹線や在来特急の運休など、各地の交通機関に乱れが生じていた。これまでの苦い経験から、とにかく新潟まで早めに戻っておくのが得策と考え、正午前に新潟駅に着いたら、案の定、金沢行き特急列車「北越」はすべて本日運休とのこと。幸いに17:30の高速バスが通常通りに運行されていることを確かめると、することも、また行くところも無くなってしまった。

■新潟県村上市柏尾（柏尾～猿澤林道入口）2013年4月13日 曇りときどき小雨

1週間前と全く同じようにして新潟まで来たが、翌朝のことを考え、その夜のうちに村上入りしておいた。駅前の米弥（よねや）旅館（¥3500円）泊。7:31の普通列車で2駅、越後早川で下車、ネットで調べておいた鍋倉山に登るべく直ぐに歩き始める。少し採集個体数を上乘せしたい、そんな思いで出掛けてきた。この辺のものは黄色の地色が明るく、その部分も広い。非常にきれいな個体が多い。しかしながら、鍋倉山への登り口がわからず、国道345号線を間島駅方面に歩いているうちに、柏尾～猿澤林道入口まで来てしまった。この林道の環境が良さそうでもあり、ここをしばらく歩いてみた。カンアオイも多く、スマレ、カタクリが開花しており、申し分なさそうであった。しかしながら、天候が予報とは違って変わり、ほとんど陽が射さない。正午ごろには風が強く、雨まで降ってくる。結局、午後3時過ぎまで当地で粘るが、まったくの惨敗であった。

■新潟県村上市柏尾（柏尾～猿澤林道入口）2013年4月14日 曇りのち晴れ

ギフチョウ 3♂

前回の能化山にするか昨日の標記の場所にするか迷ったが、結局当地に入り込んだ。昨日、見つけておいたポイントらしき場所に午前8時半から陣取るが、10:30分までは、気温がやや低く、安定して陽が射さず、目撃できず。気温がわずかに上昇するだけで飛び始めた。採集個体以外にもいくつかネットに入れるもかなりの汚損個体であり、かなり前から発生していたことを伺わせた。天候の条件さえ良ければ、かなりの数が期待できそうであったが、何せ採集時間帯に天気が悪すぎた。

■宮城県仙台市作並温泉、蕃山 2013年4月20-21日

20日：当地は、昨年2度来たが、2度とも雨に降られた。サウナで時間をつぶし、その後、青森に向うもそこでも駄目であった。関東以西の今年の桜の開花はいつにもなく早かったが、その後、足踏み状態になり、金沢や北国ではそれほどでもないように感じられた。

金沢～仙台の夜行バス（宮城交通\*注）は、往復で¥16,900円であり、仙台駅前には朝7時頃に着くことができ、当地での採集にはこれは好都合である。仙台に来た時には必ず立ち寄る「立ち食いソバ」で朝飯後、弁当を購入、当地に向かうも現地に着く頃から曇り始める。その後も時折薄日が差す程度で気温も上がらず、ややフライング気味であった。仙台市内の桜は2-3日前に満開を報じられていたが、仙山線で愛子（あやし）駅を過ぎると5分咲きほどであろうか。作並では蕾であった。スマレ、カタクリは咲いていたので気温が上がり、陽が射せば悪くはないようにおもわれた。当然、目撃ナシ。仙台駅から徒歩16分のユースホテル「千登勢屋」泊。

今年2月に40年ぶりにユースホテルの会員になった。高校から大学時代まではかなり頻りにユースホテルを利用した記憶があるが、金沢に来ると同時に利用することが少な

くなり、立ち切れになっていた。実は、3月末の横浜出張の際、「伊勢崎町ワシントンホテル」がユース料金で宿泊できるとわかり、この利用だけでも“価値あり”という訳で入会していたのである。このユースでは、外国人の多さにビックリ！娘さんがドイツへの留学経験があり、外国語が堪能であることがその大きな理由と判明した。夕食時とその後は当方には宿泊の外国人との英会話レッスンの時間となり、知っている限りの独逸語を吐き出したのは、お愛嬌であった。

21日：猛烈な寒気が日本列島を覆い、仙台市内でも66年ぶりの4月中旬の積雪となった。「西風蕃山（ならいばんざん）」に行く予定であったが、仙山線「陸前落合」から登山入口を確認後は、サウナで時間を潰す以外に方法なし。

#### ■宮城県仙台市作並温泉 2013年4月26-28日

1週間前（正確には6日前）と全く同様にして、仙台駅に来た。26日から28日までの3日間、仙山線を利用して、陸前落合下車の蕃山と作並に通ったが、3日間ともに天候が優れず、気温も低かった。安定して陽が射さず、目星を付けておいた場所での目撃はならなかった。

28日、14:50仙台発の高速バスで午後8時前に青森着、青森市内（青森まちなかおんせん・青森センターホテル）泊。

#### ■青森県青森市東岳山麓滝沢（alt. ca. 500m地点）2012年4月29日 曇りのち晴れ

ヒメギフチョウ 5♂

青森駅前7時30分の市営バス「上滝沢行き」が昨年10月から運休されているアクシデント。いたしかたなく、青い森鉄道「野内駅」よりタクシーを利用。幸いにして、駅前ですぐにつかまえることができ、午前8時には上滝沢バス停着。昨年確認済みのポイントに直行。午前中あまり陽が射さず、上記の貧果。午後は青森市内をあまり気乗りもしないが、ぶらつき、時間をつぶす。

夕方の東北新幹線で新青森から仙台に出、午後9:45発の仙台駅前からの夜行バスで予定通り、翌朝金沢着、その後平常勤務。

#### 追記

それにしても、去年と代り映えしないなあー！ギフのシーズンが終了した頃から、月1回の割で国内学会出張（12月まで）があり、その準備などもあり週末も仕事をせざるを得なかった。7月20日から10日ほど英国2か所（ウェールズおよびロンドン郊外）に出張があり、帰国してすぐ定期試験をこなし、8月7日から17日までインドネシア・カリマンタンにでかけた。このカリマンタンでは、改めて年齢を感じさせられた。明らかにネットの振りが遅くなり、トラップに来ていた個体に逃げられる始末であった。最初は竿を新調

した所為だと自分自身を無理やり納得させていたが、ロッドがしなうことも原因であり、いいチョウチョほど逃げられてしまった。また、遠近の感覚がやや衰えていることも実感させられた。これは成果が上がらなかった以上にショックであった。来年以降の採集を考え直す時期（年齢）に来ているのであろうか！

**\*注**

この原稿を書いているとき（2014. 3. 3）、この宮城交通の夜行バス（前夜仙台発）が午前5時10分、北陸自動車道小矢部サービスエリアで止まっているトラックに衝突し、2人が死亡、25人が病院に搬送される事故が報じられた。いやはや胸中、複雑でありますな！

《さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27》

---

**表紙のむし - マイマイガ -**

昨年、住まいの近辺でマイマイガが大量発生し、街灯のついた電柱に夥しい数のメス成虫が連なった。朝までに解散してくれれば良いものを、そのまま日中も留まるものだから、近所のご婦人たちの虫嫌いをとおおいに助長することとなった。ご婦人たちは、観察していた小生に、大量発生の理由や確実な防除法を尋ねてくる。テレビの池上彰のように解答（自分の意見）は言わずとも、周辺うんちくを明瞭にちりばめて話していれば、小生の株が上がったのかもしれないが、いろいろな要素をはしょって、「よくわからないですね」と結論だけを連発したので、よくわからないへんなおじさんのイメージをより強めてしまったようだ。（良い年をして虫を愛でるのは、世の中の基準では充分変態であるので、素行や一般人とのコミュニケーションには細心の注意が必要なのだが、小生は未熟。諸先輩を見習いたいものである）

今年、例年に比べて若齢幼虫を目にする機会は大変多かったが、7月になるとそうでもなく、関連は無いかもしれないが、サシガメの個体数が多いように思う。

今年も電柱に群がることになるのか興味があるが、そうなった場合、人目を避けて観察すべきか、トークを磨くべきか妄想中である。

小幡英典

---

## 白山市一里野スキー場周辺でギフチョウを目撃

松井 正人

2015年の白山麓は、前年から降り積もった何十年ぶりかの大雪によって、5月に入っても大量の残雪が有り、林道も消え残った雪で走行できず、調査はひたすら徒歩に頼った。そのおかげかどうかは分からないが、石川県白山市一里野スキー場周辺へは、これまで何度も足を運んでいたにもかかわらず目撃できなかったギフチョウを、3回目撃することができた。

■目撃記録① 白山市一里野スキー場 標高820m 2015年5月2日11時40分 快晴

除雪する林道としない林道が有るようで、除雪林道はノーマルタイヤで充分走れたが、それ以外は全く走れない。雪の林道を歩いて上ると、陽当たりの良い所では部分的にアスファルトが顔を出しており、傍らにはカタクリが咲いている。残雪の上は砂浜を歩いているように歩きにくく、陽当たりの良い場所で腰を下ろして休んでいると、谷側から来たギフチョウが林道を横断し、そのままゲレンデの方へ上がっていくのを目撃した。この付近では食草になりそうなものは、これまで観察していない。



ギフチョウを目撃した直後の写真。この林道を右手前から左奥に飛んでいった。

■目撃記録② 白山市一里野 標高490m 2015年5月5日10時20分 快晴

スキー場近く、薄暗いスギ林内にスポットライトが当たったような陽だまりがあり、吸蜜植物でも探しているかのように植物に触れながら飛ぶ1頭のギフチョウを見付けた。止まらないかを見つめていると、飛び去ってしまった。陽だまりにはスミレが1株咲き、周囲の暗がりにはカタクリがいくつも咲いていた。陽だまりでしばらく待ったり、周辺を歩き回ったが、再び目撃することは無かった。



ギフチョウを目撃した直後の写真。この林道の右側路肩でギフチョウを見付け、止まるのを待っていたが、止まらず左側の薄暗い林内に入って行った。

■目撃記録③ 白山市中宮発電所 標高440m 2015年5月5日12時50分 快晴

観察記録②に近い発電所の吊り橋を渡っていると、吊り橋の下から岩壁に沿って1頭のギフチョウがゆっくりと上がってきた。吊り橋の支柱の陰に入ったので、飛翔コースを予測して眼で追っていたが追いつけない。コースを変えたのかと、辺りを見回すがどこにも飛んでいない。「おかしいな」と消えた辺りに踏み込むと、フワリと舞い上がって斜面を上り始めた。きつい斜面を追うのは辛い。姿は見えなくなったが、また止まったようだ。壁に取り付けられたタラップをよじ登ると、石に止まっているのが見えた。花にでも止まってくれば最高なのにと、デジカメを出して一歩踏み出すと、飛び立って再び斜面を上り始め、高いブロック積みをつワリつワリと上って視界から消え去った。とりあえずはシャッターを押してから近付けば良かったと悔やんだが後の祭り。



尾添川に架かる吊り橋と中宮発電所。渡りきる寸前に、左下を覗くと岩壁に沿って上がってくるギフチョウが見えた。撮影チャンスは何度か有ったが、撮影できずに見失う。



吊り橋の一里野側斜面。平地には残雪が多いが、雪の融けた斜面にはたくさんのカタクリが咲いていた。

## ■これまでの観察例

この周辺にはギフチョウの観察例は極めて少なく、これまで3例しか知られていない。また、食草の可能性が有るものとして、ウスバサイシンやフタバアオイが観察地の近くに生育しているが、これまでの調査では卵や幼虫は見つかっていない。

1992年4月29日	白山市ブナオ山観察舎	1頭目撃	田中 稔	(松井, 1999)
1995年5月 7日	白山市山毛櫨尾山800m付近	1頭目撃	田中 稔	(松井, 1999)
2012年6月14日	白山市白山市中宮蛇谷観察路	1♀撮影	増田美咲	(野上, 2012)



一里野スキー場周辺で目撃されたギフチョウ

## 《 参考文献 》

松井正人 (1999) 手取川水系尾添川のギフチョウ. 翔(137):2.

野上達也 (2012) 中宮展示館での希少野生動物ギフチョウの確認について. 石川県ホームページ記者発表資料 (2014年8月22日閲覧) <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kisya/h24/documents/sizen0618.pdf>

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 珠洲市でジャコウアゲハの発生を観察

松井 正人

能登半島の最北部、珠洲市、輪島市、鳳珠郡（能登町、穴水町）には、ジャコウアゲハの記録は少なく、最近の30年間では珠洲市1例、輪島市3例、能登町3例、穴水町1例が知られているに過ぎない。

2007年に珠洲市高屋の海岸近くで、ジャコウアゲハが食草とするウマノズクサを発見し、毎年観察していたところ、2015年5月に産卵する1♀と多数卵を観察することができた。以後週に1度の観察を続けると、1週間後にも産卵する♀が観察でき、幼虫は齢を重ねて大きくなっていった。2週間後には大きな幼虫が多くなり、ウマノズクサが食べ尽くされる場所も出始めた。蛹も探したが、何処で蛹化しているのか見付からなかった。6月下旬には、周辺でかなりの数の成虫が観察されると思われる。



珠洲市高屋のジャコウアゲハ観察地  
食草は車道の両側にあり、山側の食草は場所によっては食べつくされていた。

### ■ジャコウアゲハ

2015年5月23日	石川県珠洲市高屋	1♀1幼多数卵目撃	松井正人
2015年5月30日	石川県珠洲市高屋	1♀多幼数卵目撃	松井正人
2015年6月6日	石川県珠洲市高屋	幼虫多数目撃	松井正人
2015年6月14日	石川県珠洲市高屋	終齢数頭目撃	松井正人



産卵途中にしばし休息する傷ついた母蝶



ウマノスズクサを食べつくす勢いの車道山側の幼虫

《参考文献》

日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子（2002）奥能登の内浦町、柳田村、門前町での蝶の追加記録種. 翔（159）：1-3.

日吉芳朗（2001）秋さなかの10月にジャコウアゲハを目撃する. 翔（152）：3.

日吉芳朗・日吉宏朗・日吉南賀子（2001）石川県輪島市での2000年の蝶採集記録から. 翔（151）：3-6.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 会員の動き・しゃばの動き

### ■映画「さいはてにて」効果

珠洲市高屋の国道脇にウmanoszukusaがあり、今年初めてジャコウの産卵が観察された。国道の花壇にもウmanoszukusaが入り込み、伸び放題だったので大量発生かと期待したが、ヨダカ珈琲の近くは手入れが行き届いたようで、すっかり消えていた。

### ■日焼けと帽子

日焼けと言えば、顔や腕、首筋に注意するが、完全防備をしたはずなのに手の甲など思わぬところが日焼けしてヒリヒリしたことがあった。今年は海岸を半日歩いたら頭のとっぺんがヒリヒリする。何でかなあと考えると、思い当たる節があった。

### ■ギフチョウの当たり年か？

白山一里野周辺のギフチョウは、これまでに3回しか観察されていない稀種。ところが大雪に見舞われた今年は、残雪が残る5月上旬に3度も観察され、呆気にとられていたところ、5月も終わりになってまたまた観察された。ミツバツツジに止まっていたらしい。

### ■石川RDB検討会

6月3日、昆虫部会の第1回会合があり、西原氏も新幹線で駆けつけ、部会メンバーが勢揃いした。これから5年間かけ2019年にRDBを完成させる。まとめ役は富沢氏で、今回は担当種割を行った。

### ■濡れ手で粟のカラスシジミ作戦

食樹の幹に腹巻きすると、カラスシジミの幼虫は地上まで降りずに腹巻きの中で蛹化する、なんておいしい採集法？を考えた

細沼氏、シュロ皮やドンゴロスなど、好きそうな素材で何本も腹巻きした結果は、三匹のムカデだけ。オオムラサキにも使えるかと思っていたが、ダメみたい。

### ■有精卵なの

チャマダラを探して御岳周辺へ出かけた細沼氏、春型のきれいきれい個体を採集してきた。金沢産のキジムシロを使って産卵させているが、あまりにきれいすぎてちょっぴり不安。

### ■石川県のギンイチモンジセリ

6月4日細沼氏、石動山でギンイチ探し。かつて採集されたと聞いたススキ原にはヨシ原があり、周囲にもススキ原は無く本当にここなのかと疑念が湧いてきたが、採集されたのは20年以上も前の話だった。

### ■これも天の計らいか

初夏の海岸で毎年たくさんのアサギにマーキングしている珠洲市のS氏。ネットの振り過ぎで、上腕二頭筋の筋が切れ腕が変形しても気にしない。心配した天は、海岸巡りができないようにと、45日間車が使えないように計らった。さればと徒歩で調査を続けると、自宅近くで山口マークが見つかった。

### ■アサギを追って

アサギの北上を追いかけて、大分県のテレビクルーが珠洲にやってきた。珠洲は大分のヒメマークが毎年見つかる所で、1週間前にも見つかった。取材日に大分ヒメは見つからなかったが、マーキングにいそしむ珠洲姫が撮影された。放映は、全国ネットで来年2月頃。

## ■天候悪化で足止め

海岸のスナビキソウでたらふく食らったアサギマダラ、おなかはパンパンで人が近付いても飛び立てずに、地表でバタついていた。こんなのを拾うように手づかみでネットに放り込み、溜まったら腰を下ろしてマーキング。何回か繰り返していたら土砂降りになった。気圧が急激に変化すると飛べなくなるのかなあ。

## ■メロディーライン

毎週珠洲に通っているが、里山海道の片側交互通行がようやく解除され、走るとタイヤが鳴りだした。速度規制の70kmで走れば1分ほど「まれ」のオープニングが聞こえるらしいが、何が鳴っているのか分からなかった。片側だけで、穴水に向かって別所岳を過ぎた辺りにある。

## ■アサギのように全国を飛び回る

喜界島で「ほうだつ」や「白山」をこれまで何頭も再観察してもらっている福島氏が来県。早朝には珠洲の狼煙でマーキング、午後は白山で幼虫観察、夜は夜で親睦会と、ハードなスケジュールだったが、楽しんでもらえて良かった。もちろんこちら也大いに楽しんだ。

## ■6月14日馬の背

細沼氏、チャリが唯一の移動手段の近藤君を拾って、医王山馬の背ポイントへ。2人の吉村氏が陣取る中、フジとアイノを採集。ピカピカを採りたかったが、♀も採れ♂はスレていた。

## ■ペグマン使ってポイント探し

グーグルマップの黄色い人型のアイコン「ペグマン」を、つまんで地図上へ持ってくると青色に変わる道路がある。ここにペ

グマンを落とすと、その場所からの360度の映像が見られる。医王山馬の背や宝達頂上、白山別当出合などの映像もある。

## ■フジはボロばかり

6月20日、医王山馬の背は人出の割にはボロばかりで、ヒサマツも何頭か採れていたようだ。狙いをヒメに切り替えたが、医王山のヒメはやっぱり居なくて、順尾山のヒメも居なかった。まだなのかなあ。

## ■カラスシジミは当たり年だった

カラスシジミの成虫は、県内では1958年以来6頭しか採集されていなかったが、昨年は2桁の成虫が採集され、これからはとほくそ笑んでいた。ところが今年は見付からない。何度通っても見付からない。

## ■姫はまだか

姫にご執心の細沼氏、「まだかまだか」と、順尾山、犀鶴など金沢の発生地を回るが、心移りしたのか、何度通っても去年のように出迎えてくれない。さればと、遠出をして奥山まで会いに行けば、一里野の姫は待ちかねたかのように出迎えてくれた。

## ■クロコの産卵

奥能登のコムラサキは、黒いのが普通で、アカコムラが採れる事はまず無い。世間では黒が珍でクロコムラともてはやされるため、強制採卵にも力が入るが、今回は産み過ぎて困っている。里子に出してはいるものの、飼育に頭が痛くなりそうだ。

## ■瀬名高原が通行止め

ミントレイノから舗装された林道を、荒谷まで楽々で行けるようになったと思ったら、2箇所も崩れて通れなくなった。ミントレイノから少し入ったところで、ヒメやアカエゾのポイントは先の先。

## ■コンデジの活用法

最近のコンデジは、軽くてポケットに楽々入り、1センチほどの近接撮影から望遠拡大撮影までできる。モニター画面は大きくて明るく、近接撮影は虫めがねよりもずっと見易く、望遠拡大は望遠鏡代わりに使える。観察には、いろいろ持って行かなくても、コンデジひとつあれば良い。

## ■ハンダマ

スイゼンジナは、アサギマダラが集まる花として全国的に有名だ。金沢ではキンジソウと呼ばれ、葉裏の紫が濃いものが栽培され古くから食べられているが、沖縄ではハンダマと言って、やはり紫が濃いものが古くから食べられているらしい。アサギも濃い紫が好きなのかなあ。

## ■昔取った杵柄とは言うものの

MERS沈静化の兆しが見えた7月1日、仁川経由でキルギス、ウズベキスタンに向かった指田氏。もらったメールからは嬉しさが伝わってきた。かつての行動力に戻ったのは喜ばしいが、体力は昔のままに維持されているのだろうか。

## ■低標高地のクジャクチョウ

越冬個体は、4～5月頃に低地で観察されているが、新成虫が観察され始める7月中頃には、医王山や中宮温泉の標高700～800m程度で観察されたこともある。県内には幼生期の観察記録は無いが、周辺での発生は十分考えられる。

## ■樹液でエルを探そう

今年も樹液でエルが観察されている。県内ではほとんど観察できない稀少種だったが、昨年からの樹液でかなりの数が観察されている。去年は医王山でも観察されている

ので、今年は樹液で探したい。9月になっても見付かる可能性は高い。

## ■昆虫表紙ファンは多かった

ジャポニカ学習帳の表紙から昆虫が消えて久しいが、このほど行われた人気投票では、昆虫が上位を独占。8月7日から3000セット限定で復刻販売されるほか、昆虫表紙の復活についても検討されている。

## ■ 例 会 の 記 録 ■

5月14日(木)金沢市民芸術村第1会議室にて、午後8時から開催。

今回は、石川ふれあい昆虫館で生まれた世界初のツダナナフシのみについて、福富氏が紹介。ツダは、これまで♀の単為生殖しか知られていず♂は観察されていなかったが、昆虫館の飼育個体の中に翅の長いのが見付かり、調べると♂だった。今後は、交尾後に生まれた卵や孵化個体に違いがあるのかどうか調べたいとか。

その他の話題は、寺津のシートテハが蛹化、シルビアはアサギの飛来が始まる頃、珠洲のシルビア、今年の白山麓は大雪、越冬エルはいなかった、一里野のギフと中宮のカンアオイ、白峰のギフ、冬眠あけのヒゲマに気を取られつつ、初参加の金大生2人は同じ高校出身、移動手段はチャリのみ、などなど。

参加は、近藤(初参加)、石川(初参加)、松井、吉村、井村、福富、竹谷、細沼、大宮の9人。

## ■ 例 会 の 記 録 ■

6月11日(木)金沢市民芸術村第1会議室にて、午後8時から開催。

井村会長から一言。今年から新しいRDBに向けて県内の調査を進める事になっ

た。種の判別には標本の精査が必要で、写真では同定できない。白山などの採集禁止区域は調査のネックで、これまでも確実な記録はほとんど残されていない。今回、採集が認められれば、確実な記録をできるだけ残したい。

主な話題は、竹松海岸にアサギが居ない、カラスは未だ出ない、今年はギフの当り年？、犀川峡で定点調査、羽化したフジは♀ばかり、幻のオオミスジとクロシジミ、一里野のヒメはどこのヒメ、石垣と奈良で採った甲虫、スネケブカが1♂2♀、白山のピドニア調べ、昆虫兄弟武藤氏、ミツバチの巣箱を買った、などなど。

参加は、近藤、石川、川辺（初参加）、浅野、吉村、細沼、松井、竹谷、井村、山岸の10人。

## ■ 例会の記録 ■

7月9日（木）金沢市民芸術村第1会議室にて、午後8時から開催。

今日は井村会長のオオトラ講座。卵を産ませるのは易しいが、エサの生木を何度も交換するのが大変なので、春に終齢幼虫を採集する。幼虫の食痕は樹皮を触ると分かり、所々削りながらたどっていくと幼虫が見つかる。これを新しい生木に入れば、後は6月上旬から始まる羽脱を待つだけ。モミを食べるので石川県でも可能性はあるが、太いのが無いので難しい。

その他の話題は、北陸のミヤマシジミ、7月中旬は低地のクジャク、去年はカラスの当り年だった、珠洲のクロアゲハを飼育中、忍び込んだら自衛隊の訓練が始まり怖かった、高1の特別授業は昆虫採集、金大でシンジュサンを見た、これがスネケブカだ、などなど。

参加は、井村、近藤、松井、吉村、山岸、川辺、大宮の7人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

## 目 次

松井正人：思 案 崎	1
松井正人：石川県庁舎周辺に生息するクマゼミの覚え書き	2
指田春喜：2013年蝶類採集（観察）報告	3
松井正人：白山市一里野スキー場周辺でギフチョウを目撃	7
松井正人：珠洲市でジャコウアゲハの発生を観察	11
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	13

## 翔 234号

TOBU 2015年8月10日発行  
百万石蝶談会  
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>  
☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印 刷 小西紙店印刷所

